

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科博士課程前期課程開講科目の優秀で意欲ある学部生への開放と研究科への進学数の増加をめざす。また、高度専門職に就く博士課程前期課程修了者数の増加をめざす。	→高度専門職(民間企業調査管理部門、公務員専門職、税理士等)に就く博士前期課程修了者数。	B	B	B	B	B
2. 休暇中の集中講義を充実し、国内外から気鋭の外部講師招聘により研究科の講義・演習内容の向上を図る。	→学外研究者講師による集中講義開講数と履修者数。	B	B	B	B	B
3. 留学生向けの授業科目を充実させる。	→外国人留学生受講対象科目開講数。	C	C	C	C	C
4. 英語による授業科目を増やす。	→英語による授業科目開講数。	D	D	D	D	D
5. 大学院生による授業評価の実施とその結果を公表する。	→大学院生による授業評価の実施回数と回答者数。	A	A	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか リサーチ・コア科目を学部上級科目(コード400番台)と合併させて、大学院入学後に単位認定するシステムをとっている。また、早期卒業による入学者促進のために2009年度よりベーツ特別奨学金優先枠を設けて促進させた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 早期卒業による入学者は、2013年度入学生ではいなかったが2014年度入学生は2名の入学者を得た。ベーツ特別奨学金優先枠を含めた早期卒業制度のメリットが学部生の間には十分に浸透しているのかについては十分に把握できていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部において研究演習Ⅰ・Ⅱ担当教員を含めた進路指導の方向性を探る。合併科目導入後の大学院科目への興味度については授業調査などを通して調査が必要である。また、早期卒業制度とそのメリットについての情報周知を促進したい。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 集中講義としての開催は多くはないが、経済学部研究会運営委員会が実施する経済学セミナーとして学部講師、招聘教員によるセミナーを春学期、秋学期各1～2回開催し大学院生にも開かれている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院生にも開かれ、学習の機会を得ている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学院生数も少ないため、要望も少ない。ランチタイムワークショップ(大学院生相互の報告会)や、奨励セミナー(研究科が講師料負担)などの利用による講義・演習の機会を増やす。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科独自の留学生向け講義科目の設定には至っていないが、専門書講読のための英語能力向上のための科目については一般生より多く設定している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学習において「日本語」などの履修が必要な場合は共通教育科目の履修を勧めている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か そもそも本研究科において留学生だけに向けた科目を設定する必要があるのか、どのような科目が必要なのかを含めて検討したい。必要な場合は、本研究科による単独設定だけでなく、共通教育科目としての設置もしくは他研究科における科目履修も視野に入れて検討したい。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	D	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか Japanese and Asian Economicsを英語によるものとしているほか、海外客員教員(招聘)による授業開講を行っており、大学院生への受講を勧めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各学期において1～2科目の開講である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入学者及び教員の英語能力との兼ね合いもあり、現時点では英語による授業科目を一気に増やすことが得策であるとは考えにくい。しかしながら、今後時間をかけて学生、教員ともに英語環境での研究・教育への従事を推奨するような取り組みを検討したい。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 全学的に実施していた授業評価を2012年度より研究科独自様式とし春学期末、秋学期末に各1回、授業科目毎に実施する方法とした。また、学部FD委員会から独立した研究科FD委員会に評価結果を集約し、教育上の大きな支障等が生じていないか確認している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 科目毎の回収とすることで回答率が大幅に上がったが、受講者が若干名の授業が多いため回答は任意としている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 回答結果を担当者に返却することで、今後に向けた授業改善の努力を促す取り組みを地道に続けたい。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆